



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。
【一学校一改善】 先手あいさつ

節の話

今月は市郡総体、期末テストと大きな節目となる行事が多い月でした。市郡総体は感染症の影響もあり、参加者や応援できる人も限られていましたが、それでもほとんどの競技が開催され、多くの感動を得ることができました。

節に関連して、竹の節について調べてみました。以下の記載は、近畿大学農学部スペシャルサイト「竹の不思議な生態と構造を応用し、ものづくりのさらなる技術発展をめざす」(井上昭夫教授)に記載されていた一部を抜粋しています。

竹の節は何のためにあるのかということ、ずばり竹の強度を高めるためにあります。節のような仕切りのない単なる空洞では、すぐに折れ曲がってしまいます。竹の節の間隔は根元が狭く、上に行くに従って広がっていき、先の方になると根元同様に狭くなっていきます。間隔が狭いのは丈夫にするためで、根元は自重に耐えられるように、先は枝葉を支えられるように狭くしてあります。一定間隔だと丈夫になりすぎて強風など横から大きな力が加わると折れてしまいます。中ほどの間隔を広げておくことでしなやかさが生まれ、強い風が吹いても力を逃がせるようにしてあるのです。

自然の不思議さを目の当たりし、学ぶことの多さに気付かされます。井上教授の研究は、竹の構造を研究し、少ない材料でより軽くて丈夫な新素材の開発につなげることが目標だそうです。

さて、節があることで強度が増す、このことは人にも通じることと思います。本気で何かに取り組んでいるときやつまづいて困っているときこそより一層強い節を作れるチャンスだと思います。本校の教育目標は、「自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する」です。多くのことに本気で挑戦してほしいと思います。応援します。

夢実現に向けて

5月31日から6月18日までの3週間、教育実習のため2人の実習生が本校に来ました。2人とも本校の卒業生なので、生徒の皆さんの先輩に当たります。授業を受けたり、作業や給食で一緒だったり、部活動で指導を受けたりといろいろな場面でふれあうことができた人も多かったと思います。それ以上に、2人の先生は毎朝玄関であいさつ運動に参加していたので、授業を受けていなくても多くの人があいさつを通して先生とふれあったのではないのでしょうか。皆さんが朝から少しでも気持ちよく過ごせるように、生徒玄関の中を掃除してくれていたことを知っていましたか。

さて、教育実習の前に大学では何回も模擬授業を経験してきたそうです。それでも、実際に皆さんに授業をすると、ねらいどおりうまくいき「分かった」という表情をしてくれてうれしくなるときもあったけれど、逆に思った通りにいかず反省することも多かったと話してくれました。話の中で特にうれしかったのは、「教育実習を経験してますます先生になりたいとの思いが強くなりました」と言ってくれたことです。そのような思いにさせてくれた皆さんに感謝です。ありがとう。

2人の先輩は先生になりたいという夢に向けて努力しています。生徒の皆さん、将来どんなことをしたいですか。自分のやりたいこと(言い換えれば夢)を見つけて(または見つけようと努力して)、その実現に向け真剣に挑戦できる人になってほしいと思います。